



7月の星空を見よう



☆アルクトゥールスとベガを見分ける

7月の夜空を見上げて、明るい星をさがしてみましょ。この季節は、空高くとくに見つけやすい1等星があります。頭のま上(天頂)よりもやや西よりの空では、うしかい座の1等星アルクトゥールスがひときわ目立ち、天頂よりもやや東よりの空には、こと座の1等星ベガが同じくらいの明るさでかがやいています。どちらもとても明るく目立つ星ですので、晴れた夜にはふたつの明るい星をたしかめましょ。そして、見つけた星がどちらの星なのか、方角や色のちがいで見分けてましょ。



方角や色でアルクトゥールスとベガを見分けよう
(図は20時~21時ころのイメージ)

アルクトゥールスの色はオレンジ色っぽく、ベガは白っぽいという、ちがいがあります。夜がふけると、アルクトゥールスは西の空低いほうへと移っていき、ベガは天頂近くまでのぼってきます。ベガは七夕の「おりひめ星」でもあります。

☆七夕の夜空を見よう!

7月7日は七夕。おはなしの中では、織女(織姫星、こと座のベガ)と牽牛(彦星、わし座のアルタイル)の夫婦は、天の川をはさんで別々にくらしていて、1年に一度、七夕の日にはしか会うことがゆるされていません。でも、雨が降ると天の川の水かさが増して、川を渡ることができなくなります。七夕まつりは星にちなんだ行事ですので、晴れて星空が望めるとよいのですが、7月はじめは梅雨のシーズンなのでやきもきします。

もともと七夕の行事は、7月7日といっても現在使われている暦ではなく、旧暦など太陰太陽暦の7月7日に行われていました。七夕まつりを月遅れの8月7日や、旧暦7月7日に合わせておこなうことがあるのはそのためです。梅雨も明けて本格的な夏を迎えるころに、昔ながらの本来の七夕の日があるのです。

太陰太陽暦の日付は月の満ち欠けと結びついていて、新月の日が毎月1日でした。旧暦の7月7日夜には、月齢およそ6の月(川をわたれそうな船のような形の月)が、南西の空にかがやきます。今年8月10日がその日にあたり、「**伝統的七夕**」とよばれます。この夏も星と月をたのしみましょ。



ギャラクシティ
GALAXY CITY



まるちたいけんドーム(プラネタリウム)
〒123-0842 東京都足立区栗原一丁目3番1号
電話03-5242-8161 URL <https://www.galaxcity.jp/>